

臨床研究に関するお知らせ

宮崎大学医学部附属病院心臓血管外科では、下記の臨床研究に、試料・情報を提供しています。皆様には本研究の趣旨をご理解頂き、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

提供先の研究課題名：National Clinical Database(NCD)を用いた膝窩動脈捕捉症候群の術式 と予後の検討

1. 提供先の研究に関する情報

1) 研究の目的や概要について

膝窩動脈捕捉症候群は非常にまれな疾患であり、正確な発症頻度は不明です。発症年齢の中央値は30歳代であり、若年者の間欠性跛行や腓腹部痛が主症状であり、血管外科の分野で非常に重要な疾患です。症例がまれであることから、これまでに大規模な報告はなく、限られた症例数の報告しか認めないため、治療を明確に規定するガイドラインやエビデンスが存在しないのが現状です。各施設で経験する症例が少ないため、膝窩動脈捕捉症候群（以下、本症）の治療方法や予後について単施設の症例で検討するには限界があります。National Clinical Database (NCD) は、本邦の外科系諸学会が協力して2011年より登録が開始された外科手術症例のデータベースで、外科医が行っている手術の95%以上がカバーされています。本研究は、NCDに登録された本症手術症例を集計し、その病態と手術術式、術後の予後について検討することを目的とします。

本研究は日本血管外科学会のデータベース管理運営委員会が主体となり、NCDと協力して研究を実施します。東京都済生会中央病院心臓血管外科、藤村直樹（副医長）が本研究の代表、慶應義塾大学外科、尾原秀明が本研究の分担者を務めます。

2) 研究実施予定期間

上記の研究は、東京都済生会中央病院倫理委員会承認日から2021年3月まで行われます。

2. 対象者

提供する試料・情報の対象となるのは、2013年1月から2018年12月に本院心臓血管外科に入院され、膝窩動脈捕捉症候群の外科的治療を受けられた方となります。

3. 提供する試料・情報の内容

対象となる方について、下記の内容の試料・情報をNCDに追加登録します。

側性、性別、既往歴、喫煙歴、身長、体重、過去の治療歴、動脈の性状、静脈の性状、下肢動脈/上腕動脈血圧比、治療内容、術後合併症の有無、術後経過、再治療の有無などが登録内容となります。なお、試料・情報は匿名化されたもの（どの研究対象者の試料・情報であるかが直ちに判別できないよう、加工又は管理されたものに限る）になります。

本研究の代表の東京都済生会中央病院心臓血管外科、藤村直樹（副医長）、本研究の分担者の慶應義塾大学外科、尾原秀明が集積したデータを後方視的に解析します。

4. ご質問などの連絡先

この研究に関して疑問、質問があった場合は下記連絡先へ連絡をお願い致します。

宮崎大学医学部附属病院心臓血管外科
准教授 古川貢之

電話：0985-85-2291
FAX：0985-85-5563